

氏名 R.T 学校名 Rotterdam International Secondary School 学年 12

1. 進学先

入学	大学名	学部・学科	一般枠/帰国枠	入試科目 (学科)	面接	小論文	合否
■	名古屋大学	Program; Biological science School; School of science	一般・ <u>帰国</u>		<u>有</u> ・無	<u>有</u> ・無	<u>合</u> ・否

2. 試験の感想

① 試験全体を振り返って。

どこの大学でも一緒だと思いますが、書類集めが大変でした。学校の先生に書いてもらわなければならないものは、なるべく早いうちに頼んでしまうべきです。そして、進み具合を時々尋ねるなどして、忘れられないようにした方がいいかもしれません。名古屋大学の試験は書類審査が主なので、ここが重要でした。

② 面接試験の傾向と感想

名古屋大学は、海外在住者とはスカイプで面接します。直接対面するよりは、緊張の度合いがましだったと思います。面接では、自分に関する質問と生物や数学についての簡単な質問をされました。自分に関する質問では、正直に自分の長所短所や将来の夢を答えるべきだと思います。科目についての質問は、IB を勉強している人なら簡単にこたえられるようなものでした。正確な時間は覚えていませんが、20 分以上かかったと思います。

③ 小論文試験の傾向と感想

小論文は、書類審査の時にその他の書類と共に提出します。三つぐらいのお題の中から一つ選ぶものと、自分のこれまでの経歴を交えながら自分が大学で学びたいことをかく小論文の二つがあります。今まで **English** で小論文を書いてきたように、先生のアドバイスを思い浮かべながら書くと書きやすいかもしれません。あと、やっぱり二つ目の小論文は、自分に正直に書くべきだと思います。その方が志望理由に熱意が出て、説得力が増す気がします。

④ その他

何か小さなことでも疑問があったら、大学にメールでも電話でも質問すべきです。例えば、**TOEFL** のスコアが期限内に着くか微妙な時、事前に伺いを立てておくと少し融通がきいたりします。自分に都合よく解釈してしまうと、後でとても困る場合があります。

3. 自分の受験勉強法

私が受験した大学は、書類審査と面接しかなかったので他の人に比べるととても楽だったと思います。小論文や面接は、**IB**、特にジャパや **English** で学んだことが使えます。だから、受験勉強としては、授業で学んだことをいかに小論文や面接で表現できるかを考えながら、それらの練習をしていました。

4. 学校生活の感想、アドバイス (CAS や TOK など)

人前に立つのが苦手なので、学校生活は苦痛でした。でも、逃げ出したくなるほどではありませんでした。そうやって、なんとなく日々を過ごしていると、いつの間にか二年過ぎていて驚きです。**CAS** や **TOK** も、それらが目の前に立ちふさがった時に、その時々を全力を尽くして頑張った気がします。私は、毎日コツコツ努力することが大の苦手なので、**CAS** が大変なことになりましたが周囲の方々の協力で何とか乗り切りました。最終的に頑張らなくてはならないのは自分ですが、自分一人では何をすればいいのか分からなくなった時は、周りの人間に助けをもらおうと道が広がります。

5. JPPC での体験、感想

JPPC は、私にとって学校よりも自分の考えを述べやすい環境でした。私の英語では伝えきれないようなことも日本語なら出来ましたし、少人数だから学校よりも断然緊張せずに授業を受けられました。日本の高校に通ったままでは学べないようなことも習いました。自分の考えをど

のようにすれば、相手により伝わるかも学びました。そのような場所があったことは、私の人生の糧となって、これからもずっと役に立っていくと思います。

6. 後輩へのメッセージ

IBは大変ですが、本当にあつという間に卒業します。その二年間でやらねばならないことが多くて、嫌になることもありましたが、過ぎてしまえば思い出になります。毎日全力を尽くすなんてことが出来ない人は、出来なくても大丈夫でした。ただ、踏ん張らなくてはいけない時もあるので、そういう時は全力を尽くせばいいのだと私は思います。

7. その他